

## 3 キャリア教育の推進

新学習指導要領においては、生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けることができるよう、特別活動を要として、各教科等における学習や学校行事、カウンセリング等の機能を生かしつつ、教育活動全体を通じてキャリア教育の充実を図ることが求められています。

### 1 キャリア教育

#### ◆ キャリア教育を理解する

キャリア教育は、幼児期から高校まで発達の段階に応じて体系的に実施し、「基礎的・汎用的能力」を育成することが重要です。

**社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、\*キャリア発達を促す教育**

\*人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

#### ◆ 基礎的・汎用的能力を理解する

キャリア教育では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力として、次の4つの能力を育成することが求められています。

- ① 人間関係形成・社会形成能力
- ② 自己理解・自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力

キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で基礎的・汎用的能力を育むものであり、特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要です。

#### ◆ 特別活動を要に推進する

特別活動では、互いのよさや可能性を発揮できる集団活動を通して、各教科等の学びを実際の場面で活用するとともに、特別活動の学びが各教科等の学習の土台となるよう、各教科等の学びと往還させることが重要です。

教科等の学習指導では、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもったり、振り返ったりしながら学ぶなど主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じて、教育課程全体でキャリア教育を推進する必要があります。

### 2 「キャリア・パスポート」

#### ◆ 「キャリア・パスポート」とは

**生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価するポートフォリオ**

生徒が学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動において、活動を記録し蓄積する教材等を活用することが効果的です。

生徒が活動を記録し蓄積する教材として国が示した「キャリア・パスポート」の例示資料を参考に、小学校から高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を越えて活用することが大切です。

#### ◆ 「キャリア・パスポート」活用目的

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力の育成に向けて、キャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材を作成し、活用することが求められています。

〔生徒〕

- ・主体的に学びに向かう力を育み、自己実現を促進

〔教師〕

- ・生徒の記述をもとに対話的な関わり、系統的な指導を充実

### 3 「キャリア・パスポート」の効果的な活用

「キャリア・パスポート」の活用にあたっては、次の3つの視点により、生徒が自己の生き方や進路を真剣に考えることにつながる 것이重要です。

#### ◆ 視点① 「日々の授業」をつなぐ

「キャリア・パスポート」と日常の振り返る活動を関連付け、考えを振り返ったり、表現したりする機会の充実を図ることが大切です。

各教科等のノート等を活用した振り返りと、学期や学年など一定の時間を取って行われる「キャリア・パスポート」の活用を一体的に捉え、振り返る力を育成することが効果的です。

##### 【効果的な活用】

- ・授業で培われた振り返る力が、「キャリア・パスポート」を書くための基盤となることを意識しながら指導しましょう。
- ・「キャリア・パスポート」により、日々の記録の再編集や取捨選択を行い、学年や校種を越えた活用を意図した記録の蓄積を図りましょう。



#### ◆ 視点② 「小・中・高」をつなぐ

「キャリア・パスポート」は、校種間の体系的なキャリア教育と関連付け、入学期・卒業期に、自分の成長を振り返りながら、将来や生き方を考える機会に活用することが大切です。

##### 【活動の記録、蓄積の仕方】

- ・後で振り返ったときにその時の気持ちなどを思い出す手がかりとなるよう、具体的に記述させましょう。

#### ◆ 視点③ 「自己理解」、「生徒理解」につなぐ

生徒の自己理解の促進にあたっては、自分の成長を自覚できるよう、「キャリア・パスポート」を活用した記録を学年や校種を越えて引き継ぐことが効果的です。

教師の生徒理解にあたっては、身に付けさせたい力を明確にした教育活動を行う中で、学びのつながりや生徒の変容を見取ることが効果的です。

##### 【教師の関わり方】

- ・書かせて終わりではなく、教師が生徒の努力を認めるメッセージを返し、対話的な関係を構築しましょう。

## ○ 参考資料

### キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 (文部科学省 平成30年11月)

- ・「特別編1」では、「キャリア・パスポート」の目的や内容を分かりやすく解説
- ・「特別編2～4」では、実践事例を具体的に解説

■ 生徒指導・進路指導研究センター サイト

リーフレット 特別編 検索

### 「キャリア・パスポート」例示資料等 (文部科学省 平成31年3月)

- ・「キャリア・パスポート」の学年ごとの様式例と指導上の留意事項を分かりやすく解説
- ・「指導者用」で指導のポイントを解説

■ 生徒指導・進路指導研究センター サイト

キャリア 資料集 検索